

日本外交文書

大正十四年 第二冊 下卷

外務省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊した。その後、戦争による中断はあったが、戦後、編さん事業を再開して、昭和三十八年には明治期の刊行を終え、大正期も近く完結の予定である。

また、このほか『日露戦争』、『ワシントン会議』等の特集を刊行し、さらに昭和期の編さんにも着手して『満州事変』の公刊をみるにいたった。

最近わが国をめぐる国際環境はいよいよ複雑多岐となってきたが、本書に収録された外交史料が対外交渉上の参考となり、また近代日本外交の歴史的研究に寄与することとなれば幸いである。

昭和五十五年三月

外務省外交史料館長

例言

- 一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録である。
 - 二、これらの文書を編さんしてできた本書の各分冊は、本年度については次の要領で区分される。
 - 第一冊 国際会議、日ソ関係、その他
 - 第二冊 日中関係、その他
 - 三、各分冊には原則として当該暦年限りの文書が収録され、これらの文書は、それぞれの事項の下に、文書の日付により暦日順に配列されている。

在外公館より本省宛電報については、発電日付を採用した。ただし発電日の不明なものは着電日を採用し、表題の日付の下に（着）を付した。
 - 四、本書に収録された文書は、原則として原書の完全な再現であり、編さんに当って原書の改変、削除、簡略化などは行なわれていない。ただし明らかな誤字はこれを訂正した。
- 使用漢字については、固有名詞など特別な場合を除いては、当用漢字を用いることとした。

目次

四 奉天派ト各派ノ交戦及ビ郭松齡事件	七〇九
五 北京関税特別会議関係	九八四
六 東三省鉄道問題	一一八二
(1) 東支鉄道	一一八二
(中ソ及ビ奉ソ協定細目交渉関係ヲ含ム)	
(2) 洗齊鉄道	一二七五
付録 日本外交文書大正十四年第二冊(上・下卷) 日付索引	

(以上 下卷)

一 青島・上海ニ於ケル在華紡罷業関係

——五・三十事件——

目次

目次

二 中国ノ排日排英運動状況

(1) 東北(滿州)

(2) 華北

(3) 揚子江流域及び華南

(4) 広東・香港

三 中国政情

(1) 善後會議及び国民代表會議關係

(2) 孫文死去關係

(3) 広東政府關係

(以上 上巻)

事項四 奉天派ト各派ノ交戦及ビ郭松齡事件

七六九 九月七日 幣原外務大臣ヨリ
在英米仏他各大使宛

最近ノ中国政況ニ関スル在北京芳沢公使来信

要旨送付ノ件

付属書

七月三十一日付在中国芳沢公使来信機密第三八

三号要旨

最近ノ中国政況ニ関スル件

亜一機密合第二三一号

支那政況ニ関スル参考資料送付ノ件

最近支那政況ニ関シ別紙大正十四年七月三十一日付在支芳

沢公使来信機密第三八三号要旨何等御参考迄ニ送付ス

(付属書)

大正十四年七月三十一日付在中国芳沢公使来信機密第三八三

号要旨

最近ノ中国政況ニ関スル件

一、財政的地盤ノ拡張

張作霖ハ金法問題解決ニ際シ其分配金ニ付甚タ不満ヲ感
シ而モ奉直戦費ニ苦シミ居ル際トテ幾分ニテモ其ノ分ケ

四 奉天派ト各派ノ交戦及ビ郭松齡事件 七六九

前ヲ多クセントシ将来関稅會議等ヲ見越シ財政收入ニ付
テ自己ノ勢力ヲ中央ニ及シ以テ此方面ニ於ケル諸種ノ便
益ヲ得ントセルコト即チ中央政府ニ対スル彼ノ主要ナル
注文ノ一ニシテ財政総長李思浩ノ如キハ之レカ為メ屢々
辭意ヲ漏シタルモ段執政ノ態度強硬ナリシ為メ留任スル
ニ至レリ張ノ金法問題解決ニ関スル分配モ充分満足ヲ得
ルニ至ラサリシモノノ如ク此点ニ付テハ中央政府ニ対ス
ル彼ノ行動ハ失敗セリト云フヘシ財政問題ニ関スル彼ノ
要望ハ斯ノ如ク充分満足セラレス從テ李景林カ天津ニ於
ケル所謂八大禍首ノ家産没収ヲ目論見タルカ如キ又張宗
昌山東占領後ニ於テモ鉄道收入ニ手ヲ付ケ濶澳督弁ヲ
追ヒテ之ニ自己ノ腹心ヲ据ヘ又進ムテハ魯大公司ニ手ヲ
付ケントスル風説アルカ如キ又以テ其余勢ト云フヲ得ヘ
シ

二、对馮玉祥關係

過般ノ奉直戦後差当リ張ノ敵トシテ重ヲ為シ得ヘキハ馮
玉祥ナリ馮ハ西北開墾ヲ使命ナリト稱シ張家口ニ蟠居シ

七〇九